

ドイツの幼稚園における子どもの「自律・自立」(Selbstständigkeit)に関する研究

大道香織 (広島大学大学院)

2024年3月にドイツザクセン＝アンハルト州マルティン・ルター大学ハレ＝ヴィッテンベルクで開催された、第29回ドイツ教育学会(Deutschen Gesellschaft für Erziehungswissenschaft: DGfE)の自主シンポジウムで発表をしました。私はドイツの幼稚園における子どもの「自律・自立」(Selbstständigkeit)に関する研究で、ドイツの幼稚園の映像をもとに日本の保育者からインタビューをした内容を中心に発表しました。特に着目頂いたのが子どもの玩具の取り合いで起きた噛みつきの喧嘩の場面で、ドイツの保育者は映像の中で「噛むことは良くない」と明確に伝え子ども同士の議論が進むのに対し、日本の保育者は「なぜ噛んだのか」噛んだ子どもの噛むことの理由を重視し子ども同士で議論をするという、子どもの自律や自立の捉えや保育者の援助でした。初めは「自分がドイツ語で発表するなんて無理だ」と思っておりましたが、不十分なドイツ語の多くをフォローして頂き、会場も温かく終えることができました。自分の語学力の至らなさに悔しさは残りましたが、この発表の内容をもとに同学会で、私が筆頭となり葛藤をテーマに共同執筆し、その論文の採択も決まりました。このようなチャレンジの場や後押しをしてくださったフェヒタ大学(Universität Vechta)のAnke König先生、指導教員の中坪史典先生には多大な感謝を申し上げますとともに、子育てしながらで研究費取得が難しい状況にある中、このような若手会員派遣支援は大変な助けとなりました。今後も精進して参りたいと存じます。